

食べもののおしゃべり Café 開催報告

1. 日時 2019年12月3日(火) 10:45~13:00
2. 場所 青森市ねぶたの家ワ・ラッセ
3. 参加 45人
4. プログラム

10:30	開会の挨拶 青森県生協連会長 平野了三
10:35	食べ物にもったいないをもう一度～食品ロスをへらしたいね～ 東北農政局 経営・事業支援部 食品企画課長 内藤 光幸氏
11:35	ゲノム編集食品ってなあに？～遺伝子組換えとの違いは？ 日本生協連 品質保証本部 安全政策推進室 中川 英紀氏
12:35	閉会の挨拶 青森県生協連常務理事 鎌田敦子
12:40	おしゃべりタイム 自由参加 お茶とお菓子をつまみながら、講師とおしゃべり
13:00	解散

5. 概要

・消費者の関心が高い「ゲノム編集食品と遺伝子組換え食品の違い」と社会的な問題である「食品ロス」をテーマとして「食べもののおしゃべり Café」を開催しました。生協内外より45名の参加があり、平野県連会長の開会の挨拶で始まりました。

・東北農政局経営・事業支援部食品企業課長の内藤氏のご講演では、年間約643万トに及ぶ日本の食品ロスの現状と問題、食品リサイクル法と食品ロス削減推進法の概要について、食品廃棄の対応として1/3ルールなどの商習慣の見直しや賞味期限の年月表示化や延長の努力、飲食業における削減対策の取り組み事例の紹介がありました。

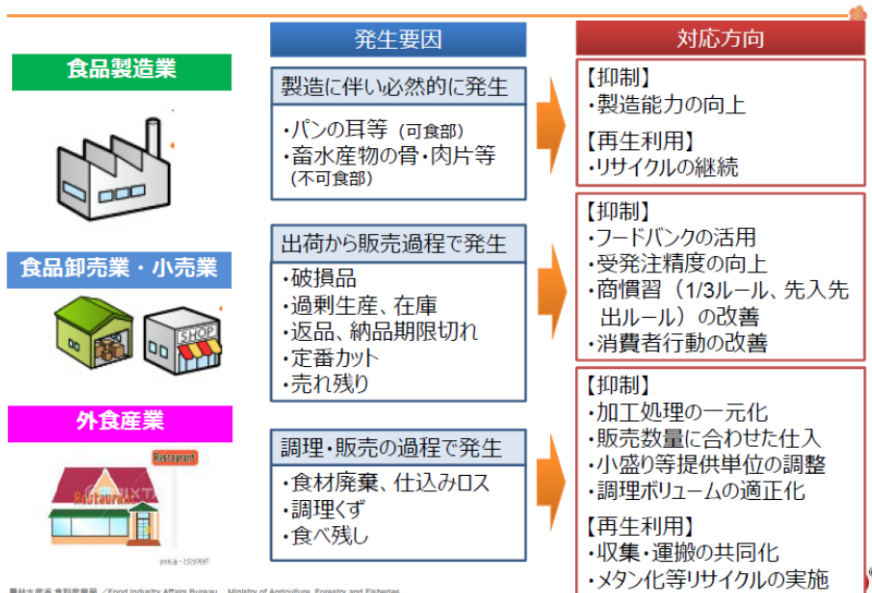


最後に誰にでもできる食品ロス削減としてお買い物編・お料理編・宴会編の事例とフードバンク活動について紹介され、みんなでできることから取り組んで欲しいと呼びかけました。



NO-FOODLOSS PROJECT

○ 食品廃棄の発生要因と対応方向



農林水産省 食料産業局 / Food Industry Affairs Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries.



・日本生協連安全政策推進室中川英紀氏の講演では、日本生協連及びコープ商品の取り組みに触れた後、3つのテーマにそってお話されました。ゲノム編集の原理や目的の種類と手順、育種法別の比較や遺伝子組換えとの違い、技術を応用した食品事例について説明があり、国での審議状況と議論の経過、日本生協連のこれまでの対応と意見が反映された点について紹介がされました。また、日本生協連での今後の取り組みとして、①組合員への情報提供②学習コミュニケーション機会③国などに対して必要な意見を挙げていくことが報告されました。

参考 育種法別の比較

区分	従来育種	ゲノム編集 (SDN-1)	遺伝子組換え
概要	・交配や突然変異で人間に都合のよいものを選抜	・不要な遺伝子を切断して目的の形質を得る	・有用な外来遺伝子を組み込む
育種期間	長期 (8~30年)	短期 (1~4年)	中期 (およそ6~10年: 安全性審査等で時間を要する)
自然界で?	起こる	起こる (可能性あり)	起こらない
外来遺伝子	ない	ない (取り除く)	ある
検査	不能	不能 (今の科学技術では)	可能

・講演終了後の、講師を囲んでのおしゃべりタイムでは、会場では聞けなかった質問や意見・感想や日頃の自分の取り組みなど、活発な話し合いとなりました。



感想よい

・国や企業でも、頑張って食品ロスを出さないようにしているので、私たちひとりひとりが、みんなで出来る事、買い過ぎない、商品は手前から取る、食べ切れる量を作り食べ残さないようにしていきます。

個人で出来る事が、たくさんあると思うので、まずは家庭で行い、地域へ広げていけるよう、活動していく必要がありますね。すぐにでも意識して、行動に移していきたい。

・ゲノム編集食品の作付けや流通、表示など気になるところはいっぱいありますが、みんなが理解するのは難しいと思います。ただ安全性は守ってもらいたいと思います。日本生協連として国への要望はしっかりしてもらいたいです。

・とてもむずかしい話だと感じました。地球規模でどう考えるのか検討してほしい。人間のわがままがゲノム編集を望むのか、今一度食品について人間はどうあるべきか考える時ではないでしょうか。